

## 第1章 調査概要

### 1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみ（可燃、雑がみ）、事業所などから排出される事業系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

### 2. 調査実施内容

#### ① 事業系ごみ

- 【実施日】 令和元年11月1日（金）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 202.1kg
- 【気温（平均）】 12.3℃

#### ② 家庭系雑がみ

- 【実施日】 令和元年11月25日（月）
- 【調査場所】 市内古紙再生業者
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【採取量】 225.8kg
- 【気温（平均）】 5.8℃

### 3. 調査手順

#### （1）試料の回収

##### ① 事業系可燃ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

##### ② 家庭系雑がみ

古紙再生業者へ持ち込まれた資源物を施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

#### （2）分類及び重量の記録

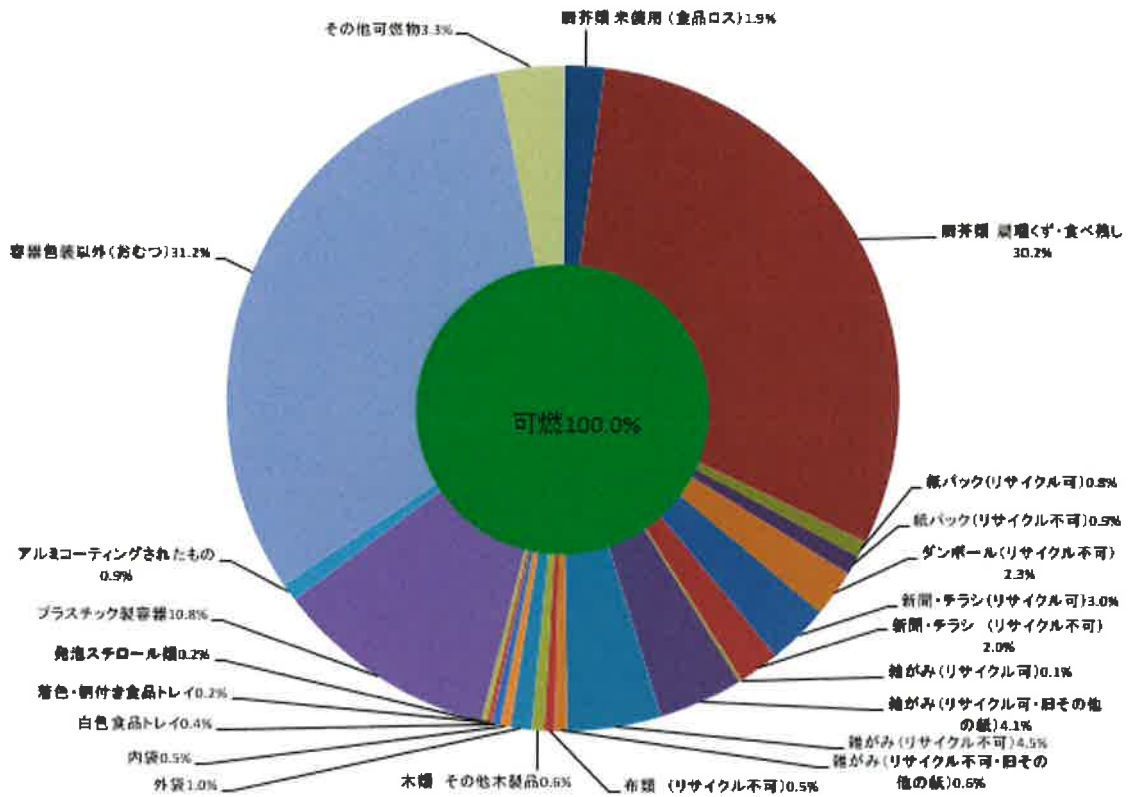
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

## 第2章 調査結果

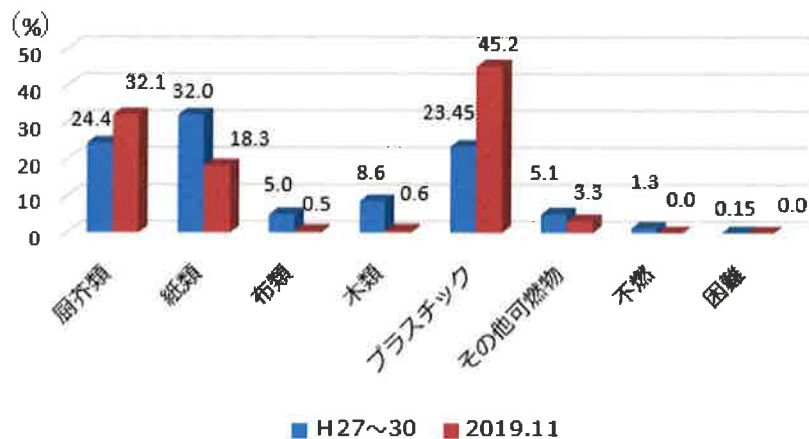
### ① 事業系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類」(45.2%)、「厨芥類」(32.1%)、「紙類」(18.3%)、の3種であり、全体の約95.6%を占めていた。個別に見ると、プラスチック「おむつ」(31.2%)、厨芥類(生ごみ)「調理くず・食べ残し」(30.2%)、プラスチック(容器包装)(プラスチック製容器)(10.8%)、の割合が高かった。



### 事業系可燃ごみの過年度との比較



② 家庭系雑がみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

割合が高かったものは「雑がみ（リサイクル可）」（65.0%）、「雑がみ（リサイクル可・旧その他の紙）」（19.4%）、「新聞・チラシ（リサイクル可）」（14.5%）の3種で、全体の98.9%を占めていた。

